

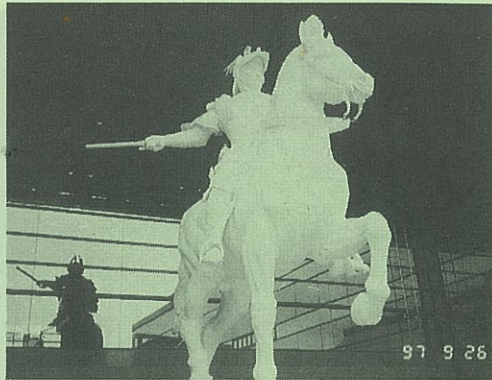
全地連「技術フォーラム'97」名古屋大会報告

1997.9.25~27

技術委員 安彦 宏 人

はじめに

第8回全地連「技術フォーラム'97」が1997年9月25~27日、名古屋国際会議場で開催された。一般参加者(472)、発表者(158)、全地連招待者(41)など合計872人が参加した。東北地質調査業協会からは永井理事長、辻副理事長、奥山理事など47名が参加した。



名古屋国際会議場・幻のスフォルツァ騎馬像
ロアルド・ダ・ウイン作、1989年世界デザイン博出展

1. 記念講演

堤防の被災対策と安全性評価というテーマで木曾三川を例にして岐阜大学工学部の宇野尚雄教授の講演が行われた。

2. 技術発表会

一般セッション 127 編、ポスターセッション 18 編、オペレーターセッション 13 編合わせて 158 編の発表があった。

一般セッションは室内試験 13、物理探査 5、地下水 18、斜面 13、地下水環境 5、地すべり 5、活断層調査 6、地盤環境 6、防災/メンテナンス 6、地形地質 7、地盤改良 5、地域地盤特性 6、軟弱地盤 11、サウンディング 4、サン

プリング 6、ボーリング 5、原位置試験 6 に区分された。



技術発表 (一般セッション)



技術発表 (ポスターセッション)

3. 懇親会

フォーラムの初日、名古屋国際会議場4号館「白鳥ホール」で開催された。主催者側の発表によると、懇親会参加者数は約480名であった。大槻全地連会長、伊藤中部地質調査業協会理事長の挨拶があり、技術者交流懇親会が開催された。会場の中央部にはワインコーナーが設置され、世界各地のワインを試飲することができた。

4. 展示会

展示会は、CALS・GIS 関連コーナー、調査試験技術コーナー、全地連ボーリング研究会コーナー、中部地質調査業協会コーナーの4コーナーに区分されていた。全地連のコーナーは標準貫入試験自動化装置、泥水装置などであった。中部地質調査業協会は「中部地方の活断層と地質」というテーマで猿投山北断層の「はぎとりパネル」等を展示した。東北からは株式会社新東京ボーリングが「鋼製粋孔口止」を出展した。

5. 特別企画“シンポジウム”

フォーラム2日目の技術発表終了後、特別企画として「環境地盤を例として工学と理学の接点を考える」というテーマでシンポジウムが行われた。コーディネーターは名城大学の板橋一雄助教授で、パネラーは次の4氏であった。

「濃尾平野に関する研究の歩みと展望」、松沢宏（応用地質㈱）

「地盤評価における工学と理学の接点（稲沢地区を例として）」、吉村優治（岐阜工業高等専門学校）

「設計・施工の立場からみた地盤評価（地質調査への提言）」、越村靖彦（鹿島建設㈱）

「地盤評価における今後の課題（標準貫入試験試料の観察について）」、小松幹雄（川崎地質㈱）

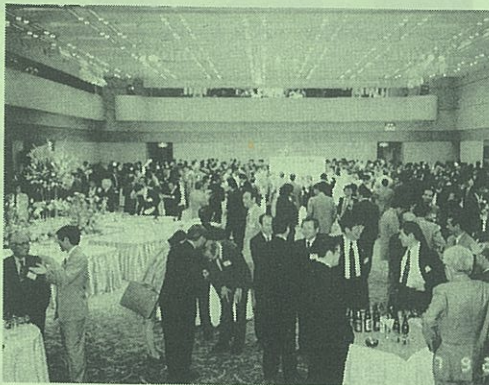


懇親会スナップ

右より永井理事長、武田川崎地質中部支店長、伊藤中部地質調査業協会理事長



懇親会・ワインコーナー



懇親会会場



展示会スナップ

全地連「技術フォーラム'97」名古屋大会報告

研修委員 樽石博行

名古屋大会最終日1997年9月27日「濃尾平野の治水・躍動の中部圏」をテーマとした、見学会が行われた。全国から32名、東北からは3名が参加した。

そして、地元中部地質調査業協会の山本見学部長の案内で始まった。

見学コース 栄テレビ塔駐車場（集合）
長良川河口堰
名港西大橋
名古屋港内遊覧
名古屋駅新幹線口（解散）



参加メンバーによる記念写真

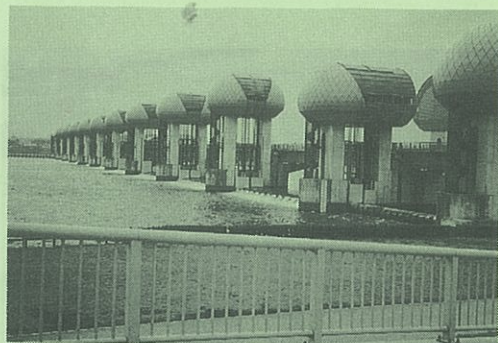
1 長良川河口堰

長良川は、ダムを造る場所が少ないことから一旦大雨が降ると大洪水となって周辺の人々に水害を与えてきた。このため川底を掘り下げ、水を低く流して水害を起きにくくすることにした。しかし川底を掘り下げると、洪水は安全に流せるかわりに塩水がいままでよりも上流へさかのぼり、長良川から取っている水や周辺

の田畑にも塩分が入りその悪影響が心配された。そこで、このような悪影響が出ないように長良川河口堰は造られた。普段はゲートを降ろし塩水のさかのぼりを止め、洪水のときは堤防より上にゲートを上げて洪水を安全に流している。



案内板前での山本部長の説明



最新設備を備えた長良川河口堰

位置

木曾川水系長良川（河口から4.5km）

形式及び規模

可動堰 二段式ゲート10門

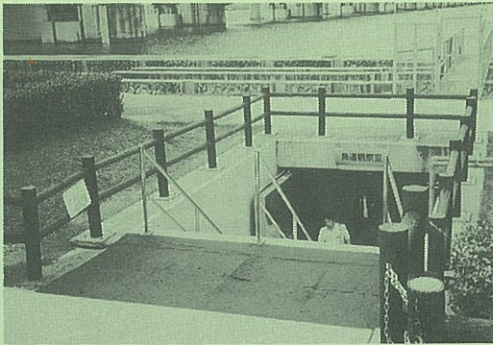
総延長661m

魚道

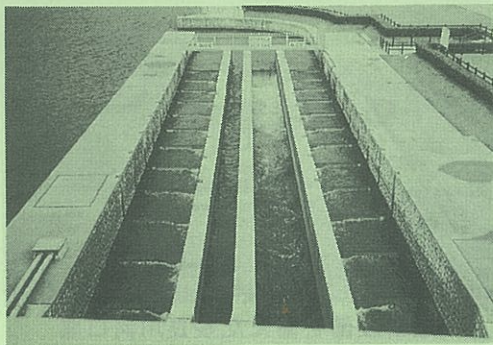
呼び水式 ロック式 せせらぎ式魚道



「アクアプラザながら館」にて熱心に説明を聞く参加者。



魚道観察室入口



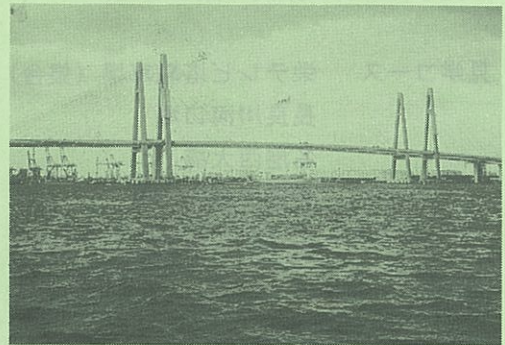
呼び水式魚道・ロック式魚道

2 名港三大橋

名古屋港の兩岸を結び、第二東名・第二名神高速道路をつなぐ、世界トップクラスの規模を誇る三大斜張橋。

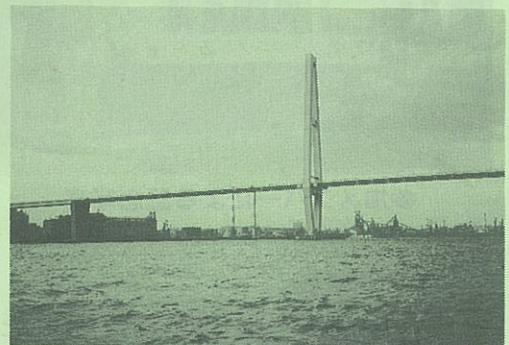
特徴

- ・潮風に強いフッ素樹脂塗料を使用。
- ・M8クラスの地震や60～70メートルの風速に耐えられる構造
- ・塔を支える基礎は、深さ50m以上のニューマチックケーソン基礎。



名港西大橋

橋長785m 塔高127m



名港中央大橋

橋長1170m 塔高195m



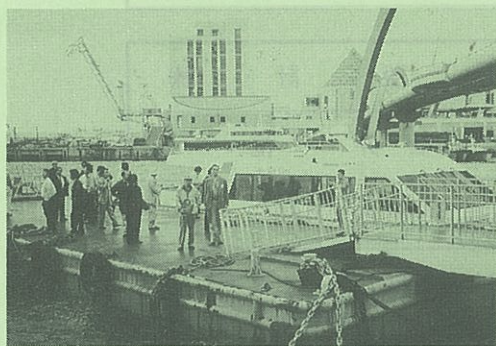
名港東大橋
橋長700m 塔高130m

3 名古屋港遊覧

名古屋ガーデン埠頭から小型豪華客船アルカンシェル号に乗船し、躍進する名古屋港内を遊覧。船内にてビュッフェ昼食をとる。

遊覧コース (約2時間)

堀川～宮の船着場～名港中央大橋～名港西大橋



名古屋ガーデン埠頭より乗船

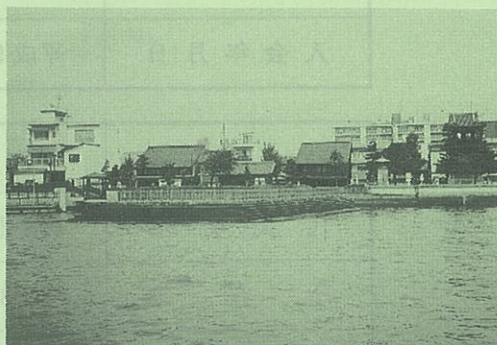
名古屋港は1日あたり120隻以上の船が出入りし、1年に1億4000万トン

の貨物量を取り扱う日本一の貿易港である。トヨタ自動車のお膝元であり、特に自動車積出基地として有名である。

港内はやや波が高く船は少し揺れたが、堀川をさかのぼると静かになり、船上より見る名古屋三橋も絶景であった。



船内にて豪華なビュッフェ昼食、大いに盛り上がった。



宮の船着場

名古屋港遊覧を終えバスで解散地の名古屋駅新幹線口へ向かった。車内にて山本部長より挨拶があり、参加者一同は関係者の労をねぎらい解散した。